

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	3690600014
法人名	有限会社コミュニケーション
事業所名	グループホーム ひばり
所在地	徳島県三好市井川町西井川375番地 (電話) 0883-78-4165

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 12 月 16 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 12 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤: 7人、非常勤: 1人、常勤換算 7.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1 階建ての 1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,820 円	その他の経費(月額)	その他実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,150 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 20 日現在)

利用者人数	9 名	男性	7 名	女性	2 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低 76 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浜クリニック・宮佐医院・徳善歯科クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は国道から少し農村地域に入った日当たりの良い自然豊かなところに位置し、周辺は利用者と共に植えた花に囲まれ、落ち着いたたたずまいとなっている。近隣住民の言葉かけや来訪、情報交流もあり、事業所の目的や機能の理解が得られ、地域にとけ込んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題「地域とのつきあい、評価の意義の理解と活用、運営推進会議を活かした取り組み、運営に関する家族などの意見の反映、職員を育てる取り組み、同業者との交流を通じた向上、重度化や終末期に向けた方針の共有、食事を楽しむことのできる支援、入浴を楽しむことのできる支援、鍵をかけないケアの実践」については、全職員で話し合い改善している。「現状に即した介護計画の見直し、災害対策、栄養摂取や水分確保の支援」については、具体的な改善が見られない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者や全職員で話し合いの場を持って取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催し、家族や民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員などが参加している。会議では外部評価結果や行事計画の報告、一時帰宅時の対応方法、地域の情報や活動場所、口腔ケアについての意見交換などを行っており、利用者にとっての地域資源の活用や外出の機会を広げる取り組みに繋がっている。また会議の内容は全職員で共有している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を設置したり、配付書類に苦情相談窓口や担当者の明記をして説明するなどし、機会あるごとに意見等を聞くように努めている。一時帰宅時の対応の不安や通院支援など、家族の意見や状況などの相談を受けるなどして職員会で話し合い、運営に活かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の方から旬の野菜が届けられたり、畑で作業中の方と話をしたり、また血圧測定を頼まれたり介護保険について聞かれるなど、日常的な繋がりをもっている。地域の自主防災訓練に自治会から誘いを受けて一緒に参加したり、保育園児と七夕飾りを作るなどの交流も続けている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりを地域の中で支えていくことを全職員で話し合い、理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や居間、トイレなど目に付きやすいところに掲示し、いつも意識づけをするとともに職員会などでも話し合い、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方から旬の野菜が届けられたり、畑で作業中の方と話をしたり、また血圧測定を頼まれたり介護保険について聞かれるなど、日常的な繋がりをもっている。地域の自主防災訓練に自治会から誘いを受けて一緒に参加したり、保育園児と七夕飾りを作るなどの交流も続けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、外部評価の意義や結果の改善点についての話し合いの場を持つなどして、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、家族や民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員などが参加している。会議では外部評価結果や行事計画の報告、一時帰宅時の対応方法、地域の情報や活動場所、口腔ケアについての意見交換などを行っており、利用者にとっての地域資源の活用や外出の機会を広げる取り組みに繋がっている。また会議の内容は全職員で共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者による実地指導の際に、相談したり助言を得るなどしている。月次報告などは担当者に直接提出し、情報をもったり相談をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者全員の家族がよく面会に来るため、暮らしぶりなど直接話しをしたり、一人ひとりのアルバムを作っいつでも見られるようにしている。外出時の様子や心身状況の変化などは電話連絡などで個々に報告をしている。金銭管理状況も定期的に報告し、家族等は確認されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、配付書類に苦情相談窓口や担当者の明記をして説明するなどし、機会あるごとに意見を聞くように努めている。一時帰宅時の対応の不安や通院支援など、家族の意見や状況などの相談を受けるなどして職員会で話し合い、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独型の事業所で異動はなく、また離職者もないため、馴染みの関係による支援が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の技量を高めるための外部研修に参加できるよう支援している。研修報告や内部の勉強会などは勤務者以外の職員が参加できる日を選び職員会議で実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	保険者が行う管理者や介護支援専門員の会議に出席し、情報の交換や運営についてのアドバイスをいただいている。職員は他のグループホームを見学して質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談をし、短時間利用や体験入所をしてもらうなど、利用者に合わせた対応や工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物を一緒にたたみながらおしゃべりをしたり、ゆっくりと側で話をする中で、家族のように感じてもらっている。また職員が出勤した際に利用者から「おかえり」と言ってもらったり、優しい思いやりの言葉をかけてもらうなど共に過ごし支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとゆっくりと接する時間をつくったり、ご家族ともできるだけ会話するなどして、本人を知る工夫をしている。また意思疎通の困難な方は筆談をしたり、行動や表情から汲み取って把握し、利用者本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	会議は勤務者以外の職員全員が参加できる日に実施し、利用者一人ひとりについて家族の意見を聞いたり、関係者が意見を出し合って作成し、家族の同意ももらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議において、利用者一人ひとりの介護計画に基づいた状況の話し合いを行っている。しかし、個人の介護計画書に見直しの記録や家族のサインがない。	○	介護計画は様式や記入方法を工夫し、見直した記録を残したり、本人・家族の確認印・サインをもらわれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出の支援や通院の送迎、受診など利用者や家族の要望に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診できるよう支援している。受診は利用契約時に説明し、家族が同行するよう同意を得ているが、できない時は職員が代行している。訪問診療を受けることもある。事業所の協力医とも連携し、適切な医療を受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方に対する支援方針は、家族やかかりつけ医と相談して話し合い、関係者全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を傷つけない言葉かけや個人情報保護については職員会で話しているが、プライバシー保護のマニュアルや明文化したものがなく徹底が図られていない。	○	個人情報保護法に関する資料やマニュアルなどの整備と機会あるごとに職員への徹底を図る等の工夫が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇の過ごし方や家事への参加など、一日の生活は利用者のその日の気持ちやペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食卓につき、食材や献立の話をして和やかに食事の時間を過ごしている。食後は一緒に食器の後片づけを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や状況に応じ、いつでも利用できる体制を整えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の花の手入れや洗濯物の整理、掃除などを一緒にしてもらっている。また外出や外食、花見などの季節の行事を取り入れるなどして楽しみをもてる機会を利用者と相談しながらつくっている。家族へ手紙を書くことを楽しみにしている利用者への支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	居間からベランダに出たり、庭歩きをして周辺の景色の移り変わりを楽しんでいる。利用者の馴染みの理・美容院への外出支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者のその日の行動や気分などを職員同士で把握して共有し、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会長や地域の消防団に災害時の協力依頼をしている。地域の自主防災訓練にも地域の方と一緒に利用者也訓練に参加している。事業所でも年2回の避難訓練を実施している。しかし、災害対策マニュアルが整備されていない。	○	災害時対策マニュアルの整備が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の重要性を認識し、利用者の嗜好に応じた献立を作成している。残食はほとんどなく、水分確保も看護師と相談して行っている。しかし栄養バランスについて専門家の助言を受けることができていない。	○	献立や一日の栄養摂取総量など、定期的に専門家の助言が得られる工夫が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大きなテレビ、季節の花や観葉植物がありゆっくりと利用者がくつろげる空間となっている。廊下の壁には利用者と一緒に作成した季節ごとの飾りがあり、庭や建物周辺には花が植えられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた机などの家具の上には写真、化粧品などが置かれ、その人の特徴に合わせた使い勝手の良い配置など、居心地よく過ごせる工夫をしている。		